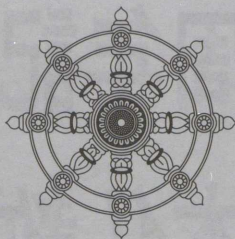


1961年1月16日第3種郵便物認可 1997年11月1日 第433号 (毎月1回1日発行1部50円)

(加盟団体関係者の講読料については、負担金に含まれている。)



全 仏

仏暦2540年11月
(1997年)

NO.433

財団創立40周年記念事業特集号



10月16日、兵庫県立文化体育館で開催された、財団創立40周年記念大会。阪神・淡路大震災物故者追悼法要(関連記事2～3頁)

財団 法人 全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

財団創立40周年記念大会 開催

第37回全日本仏教徒会議



会場の兵庫県立文化体育館をうめた多数の参加者

全日本仏教会の財団創立四十周年記念大会並びに第三七回全日本仏教徒会議が、十月十六日、兵庫県立文化体育館（神戸市長田区）で開催された。この体育館が会場に選ばれたのは、長田区が震災の中心地で、被害が最も大きい地域だったためである。

快晴に恵まれたこの日、正午の受付開始を待たずに、市内の各仮設住宅から被災者の人たちが続々と集まり始めた。今回は、特に仮設住宅での生活を余儀なくされている被災者を元氣付けるため、ボランティア関係者の協力を得て、大型バスでの送迎が行われた。

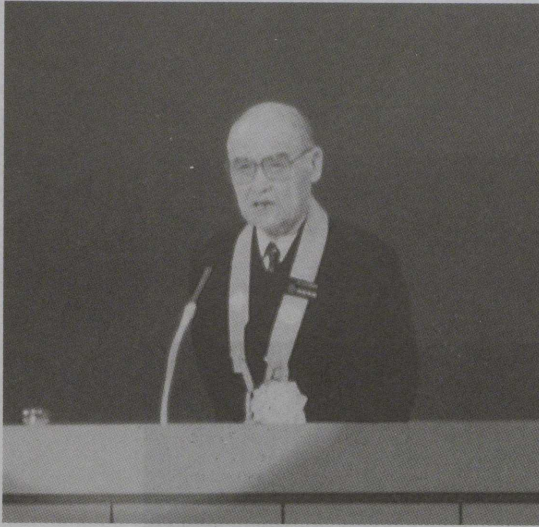
午後一時、約千五百人の参加者を前に、白幡憲佑理事長が開会挨拶、仏教徒会議の大会旗返還につづいて、高井隆秀会長を御導師に、阪神・淡路大震災物故者追悼法要が、厳粛に営まれた。

智山雅樂会による樂の音が、会場に響き渡り、壇上をうめ尽くした各宗派の袈裟・衣を身にまとった随喜出仕者が、読経を始めると、さしもの広い体育館も、荘重な雰囲気にも包まれた。

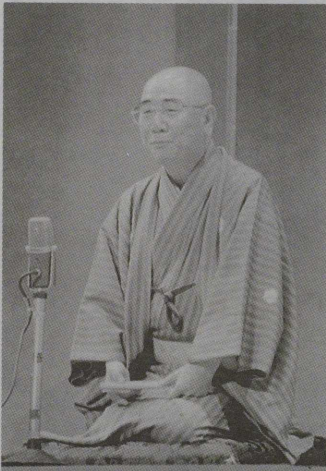
追悼法要に続き、成田有恒浄土宗宗務総長が「供養の力」というテーマで法話。供養の持つ意味とその大切さを話された。

休憩時間をはさんでの清興は、初めに柳屋とし松師匠が独楽や傘を用いた伝統芸を披露

記念法話をされる成田有恒浄土宗宗務総長



埼玉県佛教会江連会長よりの大会旗返還



三遊亭圓歌師匠



厳粛に営まれた法要

し、続いて三遊亭小円歌師匠が、継承者の少ない女流三味線漫談で会場を大いに湧かせた。続いて、落語協会会長の三遊亭圓歌師匠は、会場を爆笑の渦に巻き込む大熱演で、仮設住宅からの参加者も、その笑いの中に元気の源を得たようだった。

最後に、神戸市仏教連合会の衣笠諦道会長が閉会の辞を述べて記念大会は閉幕となった。また、入り口近くのロビーでは、大会の間、被災者の手作り品の展示即売コーナーが設けられ、多くの人でにぎわっていた。



柳屋とし松師匠



三遊亭小円歌師匠

—記念シンポジウム—

仏教とボランティア活動について



文化体育館の1階小ホールで開催されたシンポジウム



神田 裕師



上田紀行氏



奥田正叡師



高橋卓志師



有馬実成師

財団創立四十周年記念大会の行われた十月十六日当日、午後二時二十分より、兵庫県立文化体育館の一階小ホールで、「仏教とボランティア活動について」をテーマに記念シンポジウムが行われた。

会場には、加盟団体関係者のほか一般のボランティア関係者など各方面から多くの人々が参加した。

司会に、曹洞宗国際ボランティア会専務理事の有馬実成師を、また、パネリストには、高橋卓志(臨済宗妙心寺派神宮寺住職)、奥田正叡(日蓮宗常照寺副住職)、上田紀行(東京工業大学助教授)、神田裕(カトリック鷹取教会主任神父)の各師をお願いした。

各パネリストからは、実際の救援活動の経験談と様々な問題点、仏教ボランティアの教理的な位置づけなどが話された。

それに対して、一般参加者からも多くの建設的意見が出され、今後の仏教者としての課題が多く浮き彫りにされた。

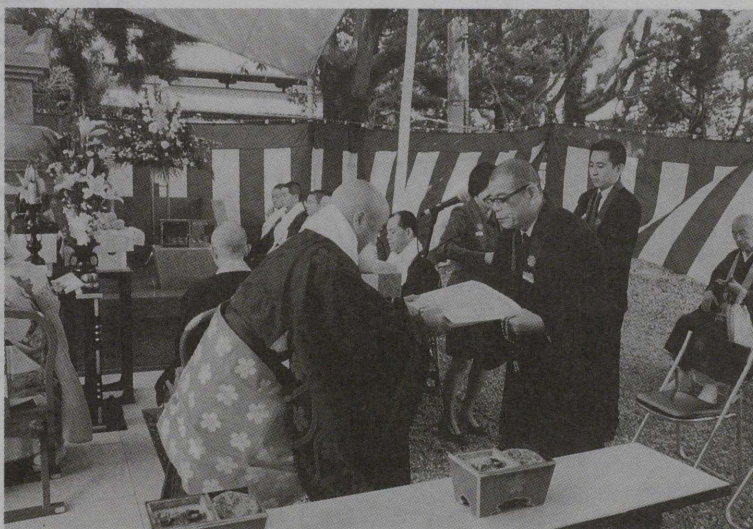
阪神・淡路大震災追悼碑建立法要

十月十五日、真言宗須磨寺派大本山須磨寺で、阪神淡路大震災物故者追悼碑建立法要が行われた。追悼碑は本財団創立四十周年記念事業の一環として、多くの震災犠牲者を追悼



全 仏
除幕された高さ三・三メートルの追悼碑

するため、七月より須磨寺境内に建立が進められていたもの。基壇を合わせて高さ三・三メートルの石造で十月初旬に完成した。碑には本会加盟団体代表の染筆も納められている。



白幡理事長より大本山須磨寺へ感謝状贈呈

当日は午前十一時に碑の除幕の後、本会高井会長を御導師に、須磨寺有縁ご寺院の出仕のもと法要が厳修され、参列者焼香へと続いた。本会白幡理事長の挨拶の後、特に建立にご協力頂いた大本山須磨寺と中野石材株式会社に、白幡理事長より感謝状が贈呈された。その後、須磨寺保存会が「神戸復興讃歌」等二曲を一絃琴で演奏し、十二時前終了した。



須磨寺保存会による一絃琴の演奏

下関から「ふぐ鍋」三千食出張提供

全日本仏教会財団創立四十周年記念事業協賛

神戸市長田区の御菅（御蔵・菅原）地区は震災で特に被害の大きかった所で、現在も仮設住宅が多く残り、完全復興までには様々な

障害がある。

十月十五日、御蔵通り五丁目の共生共創センター「もやい」を会場に、下関唐戸魚市場



大鍋で早朝から準備が行われた



開始の十二時には多くの人々が列を作った

株式会社協賛のもと、本財団創立四十周年記念事業の一環として「ふぐ鍋」三千食分の出張提供がおこなわれた。

前日、下関で仕込みを済ませたふぐを満載したトラックは、五人の有志の手によって早朝の神戸に到着。多くのボランティアの皆さんの協力を得て準備は順調に進み、十二時から提供が始まった。近隣を中心に手に鍋などの容器を手にした多くの人々が集まり、用意した三千食のふぐは瞬く間になくなった。

また、身体の不自由なお年寄りなど、会場へ赴けない人のもとへは、ボランティアの手によって二百食余りのふぐが届けられた。

「まだまだ、物心両面の支援は必要です。こうした神戸での出来事に、日本の皆さんが少しでも共感を持ち、自分の課題として捉えていただければと思います」ボランティアの一人がこう話してくださった。

被災地支援バザー

全仏誌などを通して物品提供をお願いしておりましたが、物品は全て神戸の仮設支援ボランティア団体に寄託しました。そして十月十六日を中心に各団体の手によって、仮設住宅周辺でバザーが行われております。収益は震災被災者支援に使われます。全国より多数の皆様のご協力を賜り有難うございました。

増上寺で阪神・淡路大震災被災者支援名筆展

去る九月二十三日から二十九日まで、大本山増上寺大殿地下「三縁ホール」で、阪神・淡路大震災被災者支援名筆展が開催された。

初日には、高井隆秀会長と白幡憲佑理事長の手によりテープカットが行われた。また、被災地神戸の現状についてのパネル展示、また本会のルービニー園復興事業パネル展も同時に同所で開催された。収益は被災地支援の



増上寺大殿地下「三縁ホール」で開催された

ために役立てられる。

阪神・淡路大震災被災地支援名筆展御出展者

(順不同敬称略)

- 鈴木鳳永(信貴山真言宗朝護孫子寺元管長)、
 中川祐俊(真言宗豊山派元管長)、梅田信隆
 (曹洞宗前管長)、春見文勝(臨済宗妙心寺
 派前管長)、白井慈勲(融通念佛宗管長)、高
 吉清順(真言宗善通寺派管長)、稲葉義猛(高
 野山真言宗管長)、川村俊朝(真言宗泉涌寺
 派管長)、有馬頼底(臨済宗相国寺派管長)、
 足立大進(臨済宗円覚寺派管長)、林文照、黄
 檠宗管長)、石堂惠教(真言宗中山寺派管長)、
 谷口光明(真言律宗管長)、中村康隆(浄土
 門主)、山本孝圓(天台眞盛宗管長)、吉田正
 道(臨済宗建長寺派管長)、吉田裕信(真言
 宗御室派管長)、渡邊惠進(天台座主)、河野
 憲善(時宗管長)、松山寛惠(臨済宗妙心寺
 派管長)、大谷暢顯(眞宗大谷派門首)、森
 準玄(浄土宗西山禅林寺派管長)、高野純雄
 (西山浄土宗管長)、守屋弘斎(華嚴宗管長)、
 濱野堅照(真言宗豊山派管長)、高井隆秀、真
 言宗智山派管長)、宮崎奕保(曹洞宗管長)、
 麻生文雄(真言宗醍醐派管長)、塩沢大定(臨
 済宗南禅寺派管長)、清水谷孝尚(聖観音宗
 管長)、高田好胤(法相宗管長)、毛利正明(天
 台寺門宗管長)、大谷光真(浄土眞宗本願寺
 派門主)、鶴飼慶範(浄土宗西山深草派管長)、
 森田禅朗(和宗管長)、江藤澄賢(浄土宗大
 本山清浄華院法主)、戸松啓真(浄土宗大本
 山光明寺法主)、藤堂恭俊(浄土宗大本山増
 上寺法主)、上井寛圓(真言宗大覚寺派管長)、
 村主康瑞(真言宗中山寺派総務部長)、成田
 芳髓(曹洞宗大本山総持寺貫首)、喜美候部
 継宗(曹洞宗大本山永平寺副貫首)、高橋隆
 天(真言宗智山派大本山川崎大師貫首)、坪
 井俊映(浄土宗大本山金戒光明寺法主)、岡
 本永司(真言宗豊山派大本山護国寺貫首)、
 赤松達明(黄檗宗宗務総長)、倉信隆源(真
 言宗御室派宗務総長)、川崎観隨(西山浄土
 宗宗務総長)、小林慶存(天台寺門宗宗務総
 長)、虎山秀禅(臨済宗南禅寺派宗務総長)、
 大竹明彦(曹洞宗前宗務総長)、成田有恒(浄
 土宗宗務総長)、安田暎胤(法相宗宗務総長)、
 能邨英士(眞宗大谷派宗務総長)、畔柳正顕
 (浄土宗西山深草派宗務総長)、杉谷義純(天
 台宗宗務総長)、上井寛圓(真言宗大覚寺派
 管長)、中村梅之助(劇団前進座)、中村梅雀
 (劇団前進座)、嵐 圭史(劇団前進座)、林
 錦洞(浄土宗芸術家協会会長 書家)、秩
 父美也子(書家)、菅生戒応(真言宗豊山派
 住職 書家)、三遊亭圓歌(落語協会会長)

財団創立四十周年記念式典・レセプション

記念大会の式典は、会場を新神戸オリエンタル・ホテルに移して、午後五時半から開催された。

最初に白幡理事長の主催者挨拶が行われ、玉沢徳一郎自民党組織本部長（橋本竜太郎総



祝辞をのべるチャロン・ウイスモル世界仏教徒連盟副会長

裁代理)、チャロン・ウイスモル世界仏教徒連盟(WFB)副会長、笹山幸俊神戸市長、林田英樹文化庁長官、上田卓三部落解放同盟中央執行委員長、溜水義久兵庫県副知事、広瀬静水日本宗教連盟理事長の各氏から、次々に祝辞が寄せられた。

全日本仏教婦人連盟大会

十月十五日午後一時から、大本山須磨寺の本坊を会場に、第四十四回全日本仏教婦人連



須磨寺本坊で開催された全日本仏教婦人連盟大会

その後、この記念大会開催に、特段のご協力いただいた大本山増上寺及び、仏教伝道協会に、白幡理事長から感謝状が贈られた。また阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会には、感謝状に併せて義援金が贈られた。次に、高見寛康兵庫県仏教会会長の発声で乾杯が行われ、約三百人の参加者による和やかな懇談がつづいた。そして午後七時半、荒川正憲事務総長の閉会挨拶で、全ての日程を終了した。

盟大会が開催された。

法要の後、小池弘三須磨寺貫主による法話、来賓挨拶などが行われ、最後に清興として、県の重要無形文化財に指定されている一弦琴が演奏された。

また、午後五時からは、新神戸オリエンタル・ホテルで懇親会が開催された。

記念事業協力御礼

この度の本財団創立四十周年記念事業に際しましては、各方面の多くの皆様方の多大なるご尽力・ご協力を賜りました。ここに謹んで衷心より御礼を申し上げます。誠に有り難うございました。

財団法人 全日本仏教会

一九九七年十一月一日発行
十一月号 第四三三号
発行人 荒川正憲
発行所 財団法人 全日本仏教会
〒105 東京都港区芝公園四一七-四
電話〇三三四三三七九二七五